参考資料１－２

日付：8月22日　　氏名：[redacted]、　採点者：[redacted]

lv.1：できない　lv.2：指示があればできる　lv.3：できる

研ぎ(準備)

	lv.1	lv.2	lv.3
砥石の面直しができる			○
包丁の部位名称を答えられる			○
作業前に刃の状態を観察できる		○	
砥石の番手を理解して選べる			○
砥石の見分け方ができる(製法(吸水不吸水))			○
姿勢が適切		○	
包丁の持ち方が適切			○
研ぎ手の指の置き方が適切			○

研ぎ(両刃__基本の刃付け(刃先))

	lv.1	lv.2	lv.3
適性角度の理解・維持ができる		○	
指圧のかけ方が適切			○
研ぎ方向を理解している			○
研ぎ中に水を適切に補給できる			○
砥石の面直しを適切な頻度でできる		○	
かえりを刃渡り全体出せる			○
裏面も表同様に安定して研げる			

研ぎ(両刃__応用(切り刃))

	lv.1	lv.2	lv.3
切り刃研ぎが必要な理由を説明できる			
小刃を均一に薄めることができる			
安定した寝かし角度で研げる(シノギ無し包丁)			

研ぎ(片刃)

	lv.1	lv.2	lv.3
適性角度の理解・維持ができる			○
刃先を研いでカエリを出せる			○
裏押しができる		○	
刃を付けれる			○
切り刃を研いで小刃を薄められる		○	

（研ぎ__応用）

	lv.1	lv.2	lv.3
押し研ぎ･引き研ぎを理解している			
力加減を調整できる			
指位置をスムーズに移動できる			
研ぎムラをなくせる			
刃の状態を触覚で確認できる			
それぞれの適性小刃を理解している			
薄刃包丁__刃線の直線性を保てる			
砥石に応じて適した面直しのやり方がわかる			
用途に適した砥石の硬さを説明できる。			
砥石の全面を使える			
作業後の砥石管理ができる			
刃欠け修正ができる			
刃線修正ができる			
刃角調整ができる			
切れ味の質を説明できる			
人に研ぎ方を教えられる			
最適な研ぎ工程を組める			
時間内に研ぎを完了できる			
包丁を安全に扱える			

研ぎ(接客)

	lv.1	lv.2	lv.3
包丁の状態を確認しながら状況説明できる			
使い方･何を求めているかコミュニケーションがとれる			
相手の目をみて理解しているかどうかを確認ができる			
相手の理解度に合わせたスピード感、話し方を柔軟に対応できる			
片刃と両刃の特性を説明できる			
包丁の管理方法を説明できる			

日付: 7月2日　　氏名: [redacted]　　採点者: [redacted]

lv.1：できない　lv.2：指示があればできる　lv.3：できる

伝統的包丁つくり(基本編)

	lv.1	lv.2	lv.3
包丁の用途、種類の説明が可能である			
包丁の製品用語、部位を理解している			
材質、材料の適切な配合を理解している			
(地鉄と鋼の割合)			
伝統的包丁制作技術工程を理解している			
使用する道具、機械の適切な扱いを理解し、安全に行行える			

二回目

片刃(鍛接)

	lv.1	lv.2	lv.3
制作する片刃包丁にあった地鉄つくり、鋼つくりができる		✓ (2)	✓ (3)
接合面を綺麗に洗浄できる			✓
仮付けの際の適正な接合剤の量、タイミング、温度を理解し素早く適切に行える		✓ (2)	(ブワブワ) なってない
仮付の際にずれることなく火入れ、取り出しを行える 3			✓
(ずれても自ら修正することが可能である)			
本付の際の打撃を素早く、適正な温度で行える (全体温度低い)		✓ (2)	
適正回数で鍛接できる		✓ (3)	
(仮付1回、本付1回)			
鍛接後の仕上がりに対し、状態を理解できる		✓ (2)(3)	

鍛接(両刃)

	lv.1	lv.2	lv.3
制作する両刃包丁にあった地鉄作りができる			
接合面を綺麗に洗浄できる			
鍛接する鋼の割合に対し、地鉄の正確な割り込みができる			
適正な鍛接剤の量、タイミング、温度を理解し素早く行える			
火入れの際に材料をスムーズに出し入れでき、鋼がズレることなく行える			
鍛接の際に温度を理解し的確に叩く事ができる			
適正回数で鍛接できる			
鍛接後の仕上がりに対し、状態を理解できる			

鍛造(基本編)

	lv.1	lv.2	lv.3
色で温度を判断できる			✓
鍛接した素材を適正な温度で、素早く包丁の形にできる			✓
地鉄を切断する際にタガネで印を入れた箇所を適切に切断できる			
反りや歪みを確認しながら鍛造できる			✓
包丁に適した込みの長さ、太さに合うように打ち伸ばす事ができる			✓
適正な温度で必要なサイズに叩き整えることができる			
曲尺で寸法を測りながら目的の包丁サイズに仕上げることができる			
(繰り返し行いことがある)			
金肌を落とすための水打ちの原理を理解し、行うことができる			
押し切りを用いて刃先部分を切断し、形状を整えることができる			✓
均一な厚み(テーパーなど)にできる			✓
極力削り作業を少なくする為に、正確に鍛造できる			

(整形、研磨)

lv.1	lv.2	lv.3

整形作業にて必要以上に削らず、目的のサイズに幅、長さを整えることができる
研磨機や砥石等を使い、刃物の表裏、峰、顎、込みを適正なサイズに揃えることができる
刃物のバリなどをとり、包丁の使いやすさなどを考える事ができる

(狂い取り) 1

これまでの工程での狂いや曲り、反りを整えることができる

(刻印打ち)

刻印を包丁所定の位置に正確に一撃で打てている
ショットブラストの際には、適正方向にムラなく行える

熱処理

lv.1	lv.2	lv.3

(焼きなまし)
焼きなましの作業内容をを理解できる
適正な時間、状態で藁灰への保管ができる
(ならし打ち)

ならし打ちの作業場内容を理解できる

適正な温度で狂い、曲り、反りを直すように行える
(砥の粉塗り)

砥の粉塗りの必要性を理解できる

砥の粉を適量に薄め、ムラなく刷毛で塗ることができる

炉の上でしっかりと乾かし、焼き入れに備えることができる
(焼き入れ)

火の温度調整し、的確な場所で焼き入れをすることができる

使用する素材の変態温度を理解している

所定の温度に達したら、あわてず素早く適正方法に従い急冷することができる

砥の粉を綺麗に洗浄できる

黒肌がしっかりと残り、焼き入れ工程を行える
(狂い取り) 2

適正な場所、温度で叩き直す事ができる
(焼戻し)

油戻しの場合の適正方法を理解し、行える

火戻しの場合の適正方法を理解し、行える

焼戻しの際の温度は適切にできる
(狂い取り) 3

焼き入れの際の狂い取りを正確な形に直すことができる

回転砥石(刃おろし)

lv.1	lv.2	lv.3

回転砥石を安全に使用することができる
刃物に合わせた研ぎ柄をつかい、鋼を均等に出す事ができる
波線を狂わす事なく、研ぎ上げる事ができる
しのぎのラインを定められた一定幅に研ぐ事ができる
切刃部分をえぐらずに、なだらかな蛤刃に仕上げる事ができる
両刃研ぎの際、左右対称に鋼、しのぎ、蛤刃にして研ぐことができる
(ひら回し研ぎ)

回転砥石でできた傷、波を消して刃物を整えることができる
片刃、両刃の適切な用途にあわせた研ぎができる
波線の乱れ、やぶれなく研ぐことができる
しのぎのラインが乱れたり、広がることがないように研ぐことができる